

HOME PATENTWEB TRADEMARKWEB WHAT'S NEW PRODUCTS & SERVICES ABOUT MICROPATENT



MicroPatent's Patent Index Database: Record 5 of 6 [Individual Record of JP2000239147A]

Order This Patent Family Member(s)

[no drawing available]

JP2000239147A ☐ 20000905

Title: (ENG) COSMETIC

Abstract: (ENG)

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain an aqueous cosmetic having a new solid-liquid mixture-based form, namely a form wherein gel particles controlled to an average particle diameter of 0.5- 10.0 mm are dispersed in a sol.

SOLUTION: A sol-gel mixture composition is obtained by thermally dissolving a composition containing one or more substances selected from agar, carrageenan, gellant gum and sodium alginate as disintegrative water-soluble gelled polysaccharides and one or more substances selected from native gellant gum, xanthan gum, guar gum, locust bean gum, carboxyvinyl polymers, acrylic acid.alkyl methacrylate copolymers, hydroxyethyl cellulose and hydroxypropyl cellulose, uniformly cooling and solidifying the solution, applying a mechanical shear force to the solid product to form gel particles having an average particle size of 0.5-10.0 mm. The sol-gel mixture composition has good freezing resistance and high temperature resistance, is free from stability failures such as water separation, and can easily be mixed with active ingredients.

Application Number: JP 8214899 A

Application (Filing) Date: 19990218

Priority Data: JP 8214899 19990218 A X;

Inventor(s): KAWACHI YOICHI

Assignee/Applicant/Grantee: NARIS COSMETICS CO LTD

IPC (International Class): A61K00748; A61K00700; A61K007035

Other Abstracts for Family Members: DERABS C2000-649780

Other Abstracts for This Document: DERABS C2000-649780

Patents Citing This One (3):

- WO2003061607A8 20031120 FRITH WILLIAM JAMES GB; LEE MARIA GB; UNILEVER PLC GB; WOLF BETTINA GB; EVANS JEANNETTE MARCIA GB; LEVER HINDUSTAN LTD IN; UNILEVER NV NL
COSMETIC OR PERSONAL CARE COMPOSITION
- WO2003061607A1 20030731 FRITH WILLIAM JAMES GB; LEE MARIA GB; UNILEVER PLC GB; WOLF BETTINA GB; EVANS JEANNETTE MARCIA GB; LEVER HINDUSTAN LTD IN; UNILEVER NV NL
COSMETIC OR PERSONAL CARE COMPOSITION
- WO2002036086A1 20020510 UNILEVER PLC GB; LEVER HINDUSTAN LTD IN; UNILEVER NV NL
SHEAR GEL COMPOSITIONS

Legal Status: There is no Legal Status information available for this patent



Copyright © 2002, MicroPatent, LLC. The contents of this page are the property of MicroPatent LLC including without limitation all text, html, asp, javascript and xml. All rights herein are reserved to the owner and this page cannot be reproduced without the express permission of the owner.

4/7/2
DIALOG (R) File 352:Derwent WPI
(c) 2004 Thomson Derwent. All rts. reserv.

013477837

WPI Acc No: 2000-649780/200063

Cosmetics having high humid and low temperature resistance containing polysaccharide and thickening agent

Patent Assignee: NARISU KESHOHIN KK (NARI-N)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 2000239147	A	20000905	JP 9982148	A	19990218	200063 B

Priority Applications (No Type Date): JP 9982148 A 19990218

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 2000239147	A	7	A61K-007/48	

Abstract (Basic): JP 2000239147 A

NOVELTY - Hydrous sol-gel composition, comprising one obtained by cooling homogeneously a composition containing polysaccharide forming degradable gel and water soluble thickening agent to give solid material and shearing the resultant mechanically to adjust particle size to 0.5-10.0 mm.

DETAILED DESCRIPTION - Cosmetics comprising the above sol-gel composition is also claimed.

USE - Useful as cosmetics having high humid and low temperature resistance.

pp; 7 DwgNo 0/0

Derwent Class: D21

International Patent Class (Main): A61K-007/48

International Patent Class (Additional): A61K-007/00; A61K-007/035

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-239147

(P2000-239147A)

(43) 公開日 平成12年9月5日 (2000.9.5)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーム(参考)
A 6 1 K 7/48		A 6 1 K 7/48	4 C 0 8 3
7/00		7/00	J
			R
7/035		7/035	

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平11-82148
(22) 出願日 平成11年2月18日 (1999.2.18)

(71) 出願人 591230619
株式会社ナリス化粧品
大阪府大阪市福島区海老江1丁目11番17号
(72) 発明者 河内 洋一
大阪府大阪市福島区海老江一丁目11番17号
株式会社ナリス化粧品内
Fターム(参考) 4C083 AB032 AB102 AB232 AB242
AB442 AC072 AC102 AC122
AC132 AC342 AC432 AC442
AC582 AD091 AD092 AD152
AD162 AD211 AD212 AD281
AD282 AD301 AD351 AD352
AD532 AD642 CC01 CC04
CC05 CC12 DD41 DD42 EE01

(54) 【発明の名称】 化粧品

(57) 【要約】 (修正有)

【解決手段】 崩壊性の水溶性ゲル化多糖類として寒天、カラギーナン、ジェランガム、アルギン酸ナトリウムのうちの1種または、2種以上を含み、安定性向上剤としてネイティブジェランガム、キサントガム、グアーガム、ローストビーングラム、カルボキシビニルポリマー、アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロースのうちの1種または、2種以上を含み、これを加熱溶解した後、均一に冷却固化したものを、機械的剪断力を用いて、ゲル粒子の平均粒度を0.5~10.0mmに調整することで、目的とするソルーゲル混合組成物を得る。

【効果】 上記のソルーゲル混合組成物は、凍結耐性、高温耐性を持ち、離水などの安定性不良が無く、有効成分の配合も容易であった。

【特許請求の範囲】

【請求項1】ゲル化主剤として崩壊性ゲルを形成する多糖類と、安定性向上剤として水溶性増粘剤を含有した組成物を、均一に冷却固化させた後、機械的剪断力を用いてゲル粒子を0.5～10.0mmに調整した、水系ゾルーゲル混合組成物。

【請求項2】崩壊性ゲル化多糖類として寒天、カラギーナン、ジェランガム、アルギン酸ナトリウムのうちの1種または、2種以上を含み、安定性向上剤としてネイティブジェランガム、キサントガム、グアーガム、ローストビーングラム、カルボキシビニルポリマー、アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロースのうちの1種または、2種以上を含むことを特徴とする請求項1の組成物。

【請求項3】請求項2の組成物による化粧料または、この組成物を配合することを特徴とした化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は水系化粧料に関し、更に詳細には崩壊性ゲル化多糖類と、安定性向上剤として選択された水溶性増粘剤を組み合わせた水系ゲルに、機械的剪断力を加えて作成したゾルーゲル混合組成物または、これを配合した新規水系化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、化粧料の分野において、固液混合系の剤型については、固体成分をあらかじめ調整し、液体部分に添加混合するのが一般的である。固体成分としては、ポリエチレン、ポリプロピレンなどのプラスチックや寒天、ゼラチンなどの水系ゲル、果実の種皮や無機顔料、プラスチックなどの造粒物が知られている。これらを粘性、または非粘性液体に分散させて製剤とする。そこで問題となるのが、均一に分散させることと、固体粒子を目的の大きさに維持することである。通常、数mm程度の固体粒子を均一に安定に配合することは難しく、通常は液体部分を増粘させることで安定化をはかる。増粘剤としてはカルボキシビニルポリマーに代表されるアクリル酸系樹脂やヒドロキシエチルセルロースなどのセルロース系増粘剤、キサントガムなどの増粘多糖類、粘土鉱物があげられる。一般的に使用されるアクリル酸系樹脂では耐塩性に乏しく、また反応性が高いため水溶性の有効成分の配合が難しい。またセルロース系増粘剤については、粘性がニュートン流動であるので、分離しやすく十分な安定性を得ることが難しい。特に寒天やゼラチンなどの水系ゲルについては、分散時の外力で潰れたり、保管時の温度条件によって溶解するなどの問題が発生する。現在、数mm程度の水系ゲルを安定に分散させた化粧料については知られていない。

【0003】

【発明が解決しようとする問題点】固液混合系である新

規形態の水系化粧料を得る。つまり、平均粒径0.5～10.0mmに調整したゲル粒子をゾルに分散させた剤型の化粧料を得る。もちろん凍結耐性、高温耐性を持ち、離水などの安定性不良が無く、有効成分の配合も容易であること、これらを達成すべく検討を行った。

【0004】

【問題を解決するための手段】上記の状況に鑑み、本発明者は、固液混合系である新規水系化粧料を提供すべく鋭意検討して本発明に到達した。つまり、平均粒径0.5～10.0mmに調整したゲル粒子をゾル中に安定に分散させた剤型の化粧料を得るための製法および組成について提供する。

【0005】本発明者は、崩壊性ゲルを形成する多糖類で作成した水系ゲルについて検討を行った。そこで、均一に固化した崩壊性ゲルに機械的剪断力を加えることで、剪断力を与えた部分についてはゾル化し、剪断力が加わらなかった部分についてはゲルのままであるという事実に着目した。この時、適当な剪断力を加えることにより、目的する粒子の大きさのゾルーゲル混合物が得られた。ところが、このゾルーゲル混合物については、常温でも数時間で表層に水が分離する。また凍結試験を行うと水の凍結が原因でゲルが破壊される。そこで離水を防止し凍結耐性を持たせるため、安定性向上剤として選択された水溶性増粘剤を配合し目的の組成物を得た。

【0006】崩壊性ゲルを形成する多糖類のゾルおよびゲルの一般的性質としては、以下の点があげられる。広いPHで極端な粘度低下がなく安定である。崩壊性ゲル化多糖類の再溶解温度は、一般的に80℃以上であるので、それ以下の温度では状態変化が起こらず高温での安定性に優れている。また、乳化系に組み込んでも乳化粒子の合一、分離などが少ない。金属イオンなどの荷電に安定で、耐塩性が良好なため有効成分の金属塩なども配合することができる。また、顔料分散系における荷電から生じる水溶性高分子の凝集も生じない。比較的少量で高粘度のゲルができるので使用感にも影響が少ないことなどである。

【0007】崩壊性ゲル化多糖類として寒天、カラギーナン、ジェランガム、アルギン酸ナトリウムのうちの1種または、2種以上を含み、安定性向上剤としてネイティブジェランガム、キサントガム、グアーガム、ローストビーングラム、カルボキシビニルポリマー、アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロースのうちの1種または、2種以上を含む水溶液を加熱溶解した後、均一に冷却固化する。その後、機械的剪断力を与えてゲルの一部をゾル化させる。この時、剪断力を調整することでゲル粒子の平均粒度を0.5～10.0mmに調整し、目的とするゾルーゲル混合組成物を得る。ここで得られたゾルーゲル混合組成物は、凍結耐性、高温耐性を持ち、離水などの安定性不良が無く、有効成分の配合も

容易である。

【0008】崩壊性ゲル化多糖類の配合量については、多すぎるとゲルが固くなりすぎ当初ゾル化させた部分が柔らかいため、機械的剪断力を与えてもゲルが逃げてしまい、粒子径を調整することが困難になる。また、少なすぎるとゲルが形成されない。したがって一般的には全組成物中の0.01~5.0重量%の範囲が妥当であり、特に0.1~2.0重量%が好ましい。また、崩壊性のゲル化剤の融点以上では、ゲルが再溶解して、冷却後は均一に固化し性状が変化してしまう。そのため、充分な高温耐性を得るためには、崩壊性ゲル化剤の融点は、通常60℃以上は必要で、特に80℃以上が好ましい。特に好適な例として、寒天はAX-30、UP-6、UP-37、ウルトラ寒天UX-30、UX-200（伊那食品工業製）、ジェランガムはケルコゲル（大日本製薬株式会社製）があげられる。さらに、安定性向上剤として使用する水溶性増粘剤は多すぎると崩壊性ゲルが形成されず、少なすぎると離水などの安定性不良が生じる。したがって一般的には全組成物中の0.01~5.0重量%の範囲が妥当であり、特に0.1~2.0重量%が好ましい。特に好適な例として、ネイティブジェランガムはケルコゲルLT-100（大日本製薬株式会社製）、キサントガムはケルトロールT（大日本製薬株式会社製）があげられる。

【0009】ここで、ジェランガムおよびネイティブジェランガムは、グルコース、グルクロン酸及びラムノースを構成単位とする多糖類であり、微生物起源の高分子多糖類である。一般に微生物の培養によって生産される。具体的には、シュードモナス・エロデア（*Pseudomonas elodea*）又はその同等の菌株を好氣的条件下で培養して得られる培養物から菌体表面に生産された粘質物より製造する方法が例示される。それぞれの違いは、アシル化度の違いによるものであり、アシル基が少なく透明の崩壊性ゲルを形成するものがジェランガムであり、アシル基が多く不透明な非崩壊性ゲルを形成するものがネイティブジェランガムである。キサントガムは、主としてグルコース、マンノースおよびグルクロン酸のナトリウム、カリウム、およびカルシウム塩からなる多糖類であり、微生物起源の高分子多糖類である。キサントモナス属菌（*Xanthomonas campestris*）を用いてジェランガムと同様の方法で製造される。寒天は、テングサ（*Gelidium amansii* Lamouroux）、その他同属植物（*Gelidiaceae*）または諸種紅そうから得た粘液を凍結脱水したものである。

【0010】機械的剪断力を与える方法について検討を行ったところ、バドルミキサーやヘンシェルミキサーなどの一般的混合攪拌機においても、目的のゾルーゲル混合物は容易に得られた。また、充填機のノズルにメッシュを装着し、ゲル粒子の大きさを調整する方法において

も良好な結果が得られた。機械的剪断力によってできた粒子の大きさについては、平均粒径0.5mm以下では、通常のクリーム、ジェルの外観になってしまう。また、平均粒径が大きすぎると、化粧料として用いた場合にゲルを完全につぶしてしまうのが難しくなるため不適当な場合である。したがって、平均粒径0.5mm~10.0mmが好適である。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について説明する。

A：目的とする水系化粧料に崩壊性ゲル化多糖類と、安定性向上剤として選択された水溶性増粘剤を配合する。

B：Aをゾルーゲル混合物に調整する。調整方法は、加温溶解したAを、冷却固化する。固化したゲルに目的に応じた機械的剪断力を加えて粒子の大きさを調整する。本方法を用いることで目的とするゾルーゲル混合組成物ができる。

【0012】本発明は、その使用目的に応じて各種成分を配合することができる。例えば、化粧品、医薬部外品、医薬品として認められている成分を配合することで、それぞれの製品を作ることができる。もちろん、使用目的で成分は適宜選択される。本発明のゾルーゲル混合組成物で使用されている崩壊性ゲル化多糖類および、水溶性増粘剤は保湿剤としても有用である。そのため、みずみずしい使用感が実現できるためスキンケア組成物として好適である。メーキャップ組成物としても、安定性が良好なため簡単に利用することができる。その他配合される成分として下記に示すが、もちろんこれに限定されるものではない。乳化、可溶化、分散剤としての界面活性剤、例としては、POE脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、POE高級アルコールエーテル、POE、POPブロックポリマーなどの非イオン性界面活性剤や、脂肪酸カリウム、脂肪酸ナトリウム、高級アルキル硫酸エステル塩、アルキルエーテル硫酸エステル塩、アシルサルコシン酸塩、スルホコハク酸塩などのアニオン性界面活性剤、また、アルキルトリメチルアンモニウム塩、ジアルキルジメチルアンモニウム塩、アルキルピリジニウム塩、塩化ベンザルコニウムなどのカチオン性界面活性剤があり、イミダゾリン系や、ベタイン系の両性界面活性剤を配合することも可能である。油分としては、通常の化粧品に使用できるものであれば配合可能で、植物油としては、オリーブ油、ホホバ油、ヒマシ油、コメヌカ油、ヤシ油など、動物油としては、スクワラン、牛脂、ラノリンなど、合成油としては、シリコン油、ポリイソブテン、脂肪酸エステル、脂肪酸グリセリンなど、ロウとして、ミツロウ、モクロウ、キャンデリラロウ、カルナウバロウなど、炭化水素としては、流動パラフィン、セレシン、マイクロクリスタリンワックス、ワセリンなど、高級アルコールとしては、セタノール、ステアリアルアルコール、オクチルドデカノールな

ど、高級脂肪酸としては、ステアリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、オレイン酸など、その他、シリコーン樹脂、シリコーンゴム、パーフルオロエーテルなどがあげられる着色剤などの目的で配合される粉体としては、通常化粧品に使用されるもので、有機色素（青色1号、緑色3号、赤色202号、赤色227号、黄色4号などと、そのレーキ）、無機顔料（酸化鉄、酸化チタン、酸化クロム、酸化亜鉛など）、体質顔料（セリサイト、マイカ、タルク、ナイロンパウダー、セルロースパウダー、シリコンパウダー、ポリアクリル酸アルキル、リン酸カルシウム、窒化ホウ素など）、パール（酸化チタン処理マイカ、酸化チタン、酸化鉄処理マイカ、酸化チタン、紺青処理マイカなど）や、クロロフィル、 β -カロチンなどの天然色素があげられる。これらの中から1種または2種以上を任意に選択して用いてもかまわない。また、これらの粉体に対して疎水性の向上、触媒活性の低下、滑沢性の向上を目的として、粉体に表面処理、複合化を行ってもよい。この表面処理、複合化の際に用いられる物質として、無水ケイ酸、酸化チタン、ナイロン、ポリアクリル酸アルキル、フッ素化合物、金属石鹸、油脂、脂肪酸エステル類等が例示される。本発明の組成物は、系の安定性を損なわない範囲であれば、上記成分のほかにガム質、天然水溶性化合物及びその誘導体、防腐剤、キレート剤、酸化防止剤、保湿剤、低級アルコール、多価アルコール、香料、清涼剤、PH調整剤、紫外線防止剤等を配合することも可能である。

【0013】本発明の組成物のとり得る形態及び剤型

ジェル

- (1) 精製水
- (2) ソルビット
- (3) ジブロピレングリコール
- (4) グリチルレチン酸ジカリウム
- (5) POEモノラウリン酸ソルピタン
- (6) キサンタンガム
- (7) ジェランガム
- (8) 塩化カルシウム
- (9) カルボキシビニルポリマー
- (10) 水酸化カリウム
- (11) 防腐剤
- (12) 香料
- (13) エタノール

実施例1、比較例2：成分(1)に、(2)～(11)を加えて90℃で溶解する。その後、攪拌しながら冷却を行い、(12)、(13)を加えた後55℃まで冷却を行い放冷固化した。固化したゲル体をバドルミキサーで攪拌破碎し、目的の粒度に調整した。

比較例1：成分(1)に、(2)～(10)を加えて溶

* は、液体または固体であり、液状、ゲル状、クリーム状の形態及び剤型であれば特に限定されない。例えば、保湿クリーム、マッサージクリーム、美容液、化粧水、ファンデーション、アイシャドウ、口紅、頬紅、サンケア製品、ヘアケア製品、ボディケア製品等の製品に利用が可能である。本発明の組成物は、外観が新規であり、離水などの安定性不良がなく、耐塩性があり、PHによる急激な粘度変化がなく、使用性の良好な組成物である。本発明のゾルゲル混合組成物の具体的処方と、その製造方法については後述する実施例において説明する。

【0014】

【実施例】以下に実施例を示して本発明について具体的に説明するが、これによって本発明の技術的範囲が限定的に解釈されるべきものではない。なお、以下の表に示す組成物の配合量は総て重量%で示す。

【0015】

【実施例1】（評価方法）保管安定性については、室温で1ヵ月保管した後、分離、沈殿などのないことを確認した。高温耐性については、60℃に8時間保持し、分離、沈殿などのないことを確認した。解凍耐性については、-20℃のインキュベーター内に8時間保管した後、室温で解凍を行い、分離、沈殿などがなくないことを確認した。使用性については、うるおい、のびの軽さ、なじみ、粒子の潰れやすさについて以下の基準に従って専門パネルn=10名で官能評価を行った。

◎：非常に良い ○：やや良い △：やや悪い ×：非常に悪い

実施例1 比較例1 比較例2

残余	残余	残余
4.0	4.0	4.0
3.0	3.0	3.0
0.1	0.1	0.1
0.4	0.4	0.4
0.3	—	—
1.0	—	1.0
0.08	—	0.08
—	0.15	—
—	0.08	—
適量	適量	適量
適量	適量	適量
5.0	5.0	5.0

解する。(11)～(13)を均一に溶解し混合する。

【表1】より、実施例1は外観で粒子が分散している状態がわかり、今までにない新規な形態であった。安定性については、高温耐性、解凍耐性があり良好であった。使用感についても良好で、粒子もつぶれやすく均一に液化した。比較例1については、外観は液状であった。使

用性はほぼ良好であったが、有効成分であるグリチルレチン酸ジカリウムの配合により、ゲルの状態が不良となり粘度が低下し安定性が不良であった。特に解凍耐性が悪く高分子の分離を生じた。比較例2については、外観は実施例1と同じであったが保管安定性で離水が生じ

* た。また、解凍耐性が悪く大量の離水を生じた。使用性では粒子の潰れが悪く使用時に均一に液化する状態は得られなかった。

【0016】

【表1】

評価項目	実施例1	比較例1	比較例2
性状	粒子分散クリーム状	液状	粒子分散クリーム状
保管安定性	◎	×	×
高温耐性	◎	×	×
解凍耐性	◎	×	×
うるおい感	◎	△	○
のびの軽さ	◎	◎	◎
なじみ	◎	△	○
粒子の潰れやすさ	○	--	×

【0017】

※20※【実施例2】

美容液

(1) 精製水	残余
(2) ソルビット	4.0
(3) 1,3ブチレングリコール	5.0
(4) アスコルビン酸リン酸マグネシウム	0.5
(5) POEモノラウリン酸ソルビタン	0.4
(6) 寒天	1.0
(7) ネイティブジェランガム	0.5
(8) トリメチルグリシン	1.0
(9) 防腐剤	適量
(10) PH調整剤 (PH8.0に調整)	適量

実施例2：成分(1)に、(2)～(9)を加えて90℃で溶解する。その後、攪拌しながら冷却を行い、(10)を加した後55℃まで冷却を行い、放冷固化させた。固化した透明ゲル体をステンレスメッシュ(20メッシュ)をとって目的の粒度に調整し、ソルーゲル混合組成物である新規美容液を得た。このものの外観は、半透明のゲル粒子が集まった状態であり、今までの化粧品に

★ ない新規形態であった。使用性については、ゲル粒子が簡単につぶれて、なじみもよく、使用後の感触もしっとり感があり、ハリのあるものであった。また、有効成分であるアスコルビン酸リン酸マグネシウムの安定配合も問題なかった。

【0018】

★ 【実施例3】

マッサージクリーム

(1) 精製水	残余
(2) ソルビット	4.0
(3) 1,3ブチレングリコール	3.0
(4) トリメチルグリシン	5.0
(5) POE(50 E. O.) 硬化ヒマシ油	0.5
(6) 寒天	1.5
(7) ヒドロキシエチルセルロース	0.8
(8) グリセリン	5.0
(9) 2-エチルヘキサン酸セチル	10.0
(10) セスキオレイン酸ソルビタン	1.0
(11) セタノール	3.0

(12) 防腐剤

(13) 香料

(1) ~ (8) の各成分を90℃で加熱溶解し、70℃に保つ(水相)。別に(9) ~ (13) を60℃にて加熱調製して(油相)、水相と油相をホモミキサーで混合乳化した後、55℃まで冷却を行い、放冷固化させた。固化した白色ゲル体をステンレスメッシュ(10メッシュ)をとうして目的の粒度に調整しゾルーゲル混合物で

ファンデーション

- | | |
|-----------------------|------|
| (1) 精製水 | 残余 |
| (2) 1, 3-ブチレングリコール | 5.0 |
| (3) グリセリン | 1.0 |
| (4) グアーガム | 0.5 |
| (5) 寒天 | 0.8 |
| (6) 防腐剤 | 適量 |
| (7) シリコン処理タルク | 10.0 |
| (8) シリコン処理セリサイト | 2.0 |
| (9) シリコン処理酸化チタン | 15.0 |
| (10) 酸化鉄赤 | 1.5 |
| (11) 酸化鉄黄 | 3.0 |
| (12) 酸化鉄黒 | 0.5 |
| (13) デカメチルペンタシクロシロキサン | 10.0 |
| (14) ポリエーテル変性シリコン | 1.0 |
| (15) メチルフェニルポリシロキサン | 10.0 |
| (16) ジメチルポリシロキサン | 8.0 |
| (17) 香料 | 適量 |

(1) ~ (6) の各成分を90℃で加熱溶解し、70℃に保つ(水相)。別に(7) ~ (16) を3本ローラー処理して70℃に保つ(油相)、水相と油相をホモミキサーで混合乳化した後、(17) を加え、55℃まで冷却を行い、放冷固化させた。固化した肌色ゲル体をステンレスメッシュ(20メッシュ)をとうして目的の粒度

乳化物ゲル分散化粧水

- | | |
|----------------------|------|
| (1) 精製水 | 残余 |
| (2) ソルビット | 4.0 |
| (3) 1, 3-ブチレングリコール | 5.0 |
| (4) 水酸化カリウム | 0.03 |
| (5) POEモノラウリン酸ソルビタン | 0.8 |
| (6) トリメチルグリシン | 1.0 |
| (7) カルボキシビニルポリマー | 0.05 |
| (8) グリセリン | 3.0 |
| (9) 防腐剤 | 適量 |
| (10) 実施例3のゾルーゲル混合組成物 | 10.0 |

(1) ~ (9) の各成分を混合溶解し、粘性液体を得た。(10) を加えて均一に分散し乳化物ゲル分散化粧水を得た。白色粒子が透明化粧水に分散した新規な外観であった。保湿性に優れた化粧水であった。

【0021】

【発明の効果】以上説明したところから明らかなように、本発明のゾルーゲル混合組成物は以下のような特徴

適量

適量

* ある新規マッサージクリームを得た。このものの使用性については、ゲル粒子がつぶれることで、マッサージの終了が明確に解るという利点があった。使用後のなめらかさに優れたマッサージクリームであった。

【0019】

【実施例4】

残余

5.0

1.0

0.5

0.8

適量

10.0

2.0

15.0

1.5

3.0

0.5

10.0

1.0

10.0

8.0

適量

※に調整した。このものは、クリーム状、液状、パウダー状である通常のファンデーションとは異なり、肌色のゲル粒子が集まった外観であり、新規形態のファンデーションであった。

30

【0020】

【実施例5】

残余

4.0

5.0

0.03

0.8

1.0

0.05

3.0

適量

10.0

及び利点を有する。

(イ) 新規形態の化粧料を得る。つまり、0.5~10.0mmに調整したゲル粒子をゾルに分散させているという、今までにない外観の水系化粧料を得ることができる。

(ロ) この組成物は、凍結耐性、高温耐性を持ち、離水などの安定性不良が無く、有効成分の配合も容易であ

50

る。

(ハ) さらに、本発明で使用する基材については、食

品添加物や化粧品原料として汎用されているもので極めて安全性が高いものである。